



施設園芸の発展に向けて

牧瀬 勝則 トヨハシ種苗(株) ハウス施設課

我が社のある愛知県東三河は日本において有数の農業生産地域であり、露地では甘藍、ブロッコリー、白菜、また施設園芸においてはトマト・いちご・菊の栽培が盛んで、農業生産高、栽培技術もトップクラスの位置にあると思われます。最近ではトマト栽培において如何に収量を上げることができるかが課題となっています。ここでは、弊社の取り組みについて紹介したいと思います。

弊社には、ハウス施設課、養液栽培課、企画開発室、研究農場という部署があり、これらの課が協力してそれぞれの役割を果たしながら開発に取り組んでいます。

私の在籍しているハウス施設課は新設ハウス、改修工事の設計施工を受け持っており、トマト栽培に必須な、高軒高ハウスの強度、機密性、採光性の向上を考慮しながら、低コスト化を目指しています。また近年この地方も台風の上陸が増え如何に風に耐えうるハウスや改修工事ができるかも重要な要素となっており、これらの課題を解決することが重要な役割となっています。また企画開発室と協力して新しいハウスを建設中なので、成果が出れば紹介したいと考えています。

養液栽培課は、栽培システムの設計施工、開発、栽培のサポートを担っている部署です。近年、土耕から養液栽培に栽培方式を変える生産者が増えており、その中でもココバaggを培地としたトマト栽培導入者が大きなウェイトを占めています。ココバaggはこの地方で最も早く導入され、弊社では栽培

方法、栽培管理を研究して参りました。設置コストが安価で、肥料管理ができ、栽培が容易で、病気が発生しても植物体をバッグごと替えるのでメリットも大きいです。東海地方の販売だけではなく、他県の農材販売店様を通じての導入も増えており、全国販売も視野にいれて展開中です。また生産の方が安心して導入できるよう、栽培サポートやアフターメンテナンスも充実しています。

企画開発室は、統合環境制御の確立、省エネ資材の開発、住宅向け太陽光発電の販売を行っている部署です。特に、トマトの環境制御に関しては力を注いでおり、光、温度・湿度・炭酸ガスと光合成速度関連の研究を弊社の研究農場および外部研究施設とタイアップして進めています。CO₂濃度や湿度を管理するオリジナル制御盤の開発も行い販売しています。またトマトに限らず、他の作物の環境制御にも目を向けて研究に取り組んでいます。

研究農場は、品種の比較試験、環境制御試験、実証試験などを行っており、企業、研究機関、生産者が全国から訪れ、多くの農業関係者のご活躍にわざわざながらですが、お役に立たせて頂いております。

最後に、弊社は種子から収穫までのお手伝いをさせて頂き、このように施設および栽培システムのソフト、ハードの開発に力を入れ、お客様第一主義を目標として、社員一丸となって生産者および農業の発展に努めてまいります。